

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

## 創作活動を通じて地域社会に貢献

### 久保善博さんが県民文化奨励賞



受賞を喜ぶ久保善博さん

西城町大佐で「善博日本刀鍛錬道場」を構える、刀匠の久保善博さんが、(財)けんしん育成文化振興財団の「第23回県民文化奨励賞」を受賞しました。

これは、久保さんの永年にわたる創作活動・文化活動が、潤いのある地域社会の創造発展に貢献したと高く評価されたものです。

久保さんは、平成19年に(財)日本美術刀剣保存協会主催「新作名刀展」で、第1席の会長賞を受賞したほか、中国山地の一大産業であった「たたら製鉄」について、学術的に研究し、発表しています。

また、展覧会の開催や、近隣の小学校児童に「たたら製鉄」の体験指導を行うなど、日本刀の魅力や優れた技術の普及・伝承に努めています。

今後について久保さんは「小刀教室を開催して、ものづくりの楽しさを伝えていきたい」と話していました。

## 桜満開の上野池で「音色」を楽しむ

### 倉田百三ゆかりの紫水寮でイベント

桜が満開となった上野池の紫水寮で、さまざまなイベントが開催されました。

紫水寮は、結核を患った倉田百三が療養生活を送ったことで知られています。4月12日は、「敦盛さん保存会」の公開練習が行われ、紫水寮から流れる琴や三味線の音色に、花見客が足を止めて聞き入っていました。13日には、「NPO法人アースランドフォトネットワーク」による「桜咲く国から」コンサートが行われ、新屋まりさんの心地よい歌声が上野池に響きました。

紫水寮は、無料休憩所として「庄原紫水会」の皆さんがボランティアで管理・運営しています。庄原紫水会では、紫水寮の管理を行うボランティア会員を募集しています。関心のある方は、☎0824-72-0742(定光)または☎0824-72-2870(土居)までご連絡ください。



左がコンサート、右が公開練習

## 地域資源を活かしイベント

### ためしげ福寿草まつり



写真を撮りながら散策する観光客

「福寿草の里」を広くPRしようと、為重自治振興区が4月5・6日の両日、東城町久代地区で「福寿草まつり」を開催しました。

今年も約1.5キロにわたる福寿草自生地では、早春のやわらかな日差しを浴びて黄色い花が咲き、市内外から訪れた多くの観光客は「これだけ群生しているのは珍しい」と、かわいらしく咲いた花を写真に収めていました。

また、バザーコーナーでは、山菜うどんやしし汁、おこわなど、地元の味を楽しんでいました。

この地区に咲く福寿草は、「ミチノクフクジュソウ」と呼ばれる種類で、他の品種とは交配されていない原種。「幸福を招く」といわれ、地元で大切にされてきました。

為重自治振興区では、遊歩道を整備したり、専門家による山野草の勉強会をしたりして、福寿草の里づくりを進めています。

## 心をついに新たな門出

### 比和と山内で小学校統合式

比和町の4つの小学校を一つに統合し、新しい比和小学校のスタートとなる比和小学校統合式が4月6日、比和小学校体育館で行われました。

式典では、統合に伴って作られた新しい校歌が披露・斉唱されました。この校歌は、4つの小学校の児童が考えた歌詞と一般公募による歌詞を、比和町出身の作詞家奥田祐子さんが取りまとめて完成したものです。

児童を代表して田中大地くんは「4校のみんな、それぞれの学校や地域の良いところ、宝物を発表し合って思い出の詰まった新校歌ができました。この校歌のように、それぞれの学校で頑張ってきたことや素晴らしい取り組みが、一つの学校になることによって、もっと素晴らしい考えが浮かび、良い行事や取り組みができると思います」とあいさつしました。

4月7日には、山内小学校と水後小学校を一つにする統合記念式典が山内小学校体育館で行われ、新生山内小学校として第1歩を踏み出しました。

廣澤伸高校長は「両校の歴史、伝統、風土を継承し、一つの学校として、心豊かでたくましい山内の子どもたちの育成と、美しい学校・新生山内小学校の創造を目指してまい進します」とあいさつ。

統合を記念して、山内自治振興区からバッジ200個が送られました。自治振興区の実安裕美事務局長は「同じバッジをみんながつけることで、一体感の醸成になれば」と話していました。



新しい校歌を歌う比和小の児童



バッジをつけてもらう山内小の児童

## 市街地にひな飾りが並ぶ

### 東城まちなみ春まつり

東城まちなみ春まつりが4月4日から4月10日まで開催され、東城市街地の商店などに、ひな飾りが約500mにわたり並びました。

各家に伝わるひな人形を中心として、藍染めのれんや刺子、押花アートなどの作品が東城の春に彩りを添えました。また、老舗旅館三楽荘での雪消し鍋、地域住民のぜんざいやうどん、抹茶などで観光客をもてなし、にぎわいました。

4月5日には、東城町出身のバリトン歌手、久岡昇さんのオペラ「一人笠地蔵」が徳了寺境内であり、暖かな春の日差しの中、コンサートと芝居がミックスされた公演に大勢の観客が魅了されました。

公演した久岡さんは、「出身地の東城で、このようなコンサートを開催でき、とても胸が高鳴りました。また、東城で公演できる日を楽しみに練習を重ねていきたい」と話していました。



ひな人形の展示と琴の演奏を楽しむ



## 防災意識の高揚を図る 市消防団比和方面隊出動式



観閲を受ける団員

庄原市消防団比和方面隊出動式が4月6日、比和スポーツ広場で開催されました。

この「出動式」は、比和方面隊独自の行事として毎年行われ、消防団員の防災に対する意識の高揚を図るとともに方面隊内での役員異動や新入団員の紹介、各種表彰などを行っています。

当日は、岡原恭昭方面隊長をはじめ70人の団員が参加。商店街でパレードした後、式典に臨み、観閲、器具点検、分列行進を行いました。団員らは「有事の際に、住民の皆さんの期待に応えられるよう技術向上に努めていきたい」と話していました。

比和方面隊では6月に、大規模林野火災想定訓練を予定しています。

## 節分草の魅力を作品で表現 山野草写真・絵手紙コンテスト

節分草自生地公開期間中に募集した「山野草写真・絵手紙コンテスト」の審査が行われ、各部門で最優秀1点、優秀賞2点、佳作5点の受賞者が決まりました。



最優秀作品の2点

このコンテストは、総領町に咲く節分草や山野草を題材とした写真や絵手紙の作品を募集するもので、今年で11回目になりました。

今回は、写真の部に61人から175作品、絵手紙の部に30人から41作品が応募。最優秀賞は、写真の部で広島市の山木純子さんに、絵手紙の部で福山市の谷川伊子さんにそれぞれ贈られました。

入賞した作品は、今後の広報資料として活用するほか、総領町の道の駅リストアステーションなどで展示します。

## 各家のひな飾りを集め展示 くちわ旧暦ひなまつり

口和公民館が4月1日から8日までの7日間、口和文化ホールヒューマンライツで、「くちわ旧暦ひなまつり」を開催しました。

暖かくなり始めたこの時季は、旧暦で桃の節句にあたります。昭和初期の三次人形や豪華な七段飾りなど、口和公民館が各地域へ呼びかけて集めたひな人形やひな飾り、掛軸が会場に並びました。

5日には、メンコなど昔懐かしいおもちゃで遊べるコーナーや木工教室、絵本の読み聞かせが行われ、多くの子どもたちでにぎわいました。



ひな人形の前で絵本の読み聞かせ

## 公園の改装を祝いイベント 青岳山公園で「さくらまつり」

峰田自治振興区が4月13日、公園の改装を記念し、青岳山公園で「さくらまつり」を開催しました。

地域住民など約150人が参加。歌手の上杉千恵美さんによる歌謡ショーのほか、カラオケや大声大会、宝探しなどが行われ、参加者は桜の木の下で弁当を食べながら、それぞれのイベントを楽しみました。

峰田自治振興区は昨年度、地域のシンボル「青嶽山」山頂の公園を地域の憩いの場とするともに、庄原市の新名所としてPRするため、市の自治振興区活動促進補助金を活用して、展望台や案内看板を設置。3月には、桜の苗木約30本を公園に植えています。



桜の下で歌謡ショーを楽しむ

## 食品の機能を学び新商品の創出へ 庄原地域機能性食品研究会



机に並んだ加工食品を手に取りながら講演を聞く

しょうばら産学官連携推進機構が3月26日、庄原市ふれあいセンターで「庄原地域機能性食品研究会」を開催しました。

これは、県立広島大学の研究資源を生かし、付加価値の高い新商品の開発に取り組もうと行われ、食品加工に取り組む地域住民など約30人が参加しました。

研究会では、食品加工技術アドバイザーの藤中義治さんが「地産農産物を活かす食品加工」と題して講演。庄原にある農産物を使った加工食品を机に並べ、「アイデアだけで、これだけの加工食品ができる。いつでも相談を受け付けるので、新商品を開発しよう」と呼びかけました。

また、県立広島大学の武藤徳男教授や吉野智之講師が講演し、食品機能の活かし方について説明しました。

講演の後、参加者は実際におからクッキーなどの加工食品を試食しながら、意見交換しました。

## 自治振興区活動をまとめて紹介 地域情報誌「たかの」を発行

高野町自治振興区連絡協議会が4月4日、地域情報誌「たかの」4号を発行しました。

この地域情報誌は、高野町の情報共有と情報発信、自治振興区活動の啓発を目的とし、平成17年12月に創刊しました。今回は、高野町の1年間の自治振興区活動をまとめ、連絡協議会が主催したグラウンドゴルフ大会、花いっぱい景観コンテスト、七夕まつりをはじめ、高野町の11自治振興区の特色ある活動を写真付きで紹介。900部印刷し、高野町の全世帯へ配布しました。

編集スタッフ代表の後藤信房事務局長は「各自治振興区の特色ある取り組みが刺激となり、さらに地域づくりが活発になれば」と話していました。



22ページ、オールカラーの地域情報誌

## 温かい音色に笑顔広がる

### 口和郷土資料館レコードコンサート

ふれあいレコードコンサートが4月5日、口和郷土資料館で行われました。

このコンサートは、安部博良館長が真空管などを集めて制作したオリジナルのアンプを使って行われ、遠くは広島市などからお客が集まりました。

来場者が持参した「愛蔵盤」を中心に、クラシックや洋楽、誰もが懐かしむ歌謡曲を流すと、来場者はレコードのジャケットを見ながら、当時の思い出や音へのこだわりを楽しそうに話していました。

この資料館は、たびたびマスコミにも取り上げられるなどして、平成19年度の入場者数は前年度のほぼ倍になっています。安部館長は「今後もふれあいシネマや、ふれあいコンサートを継続し、市外からも多くの人を呼び込みたい」と話していました。



安部館長との会話を楽しみながらレコードを聴く